令和７年度重点プロジェクト事業

スポーツや武道を通した国際交流を図り、スポーツや武道の学術的・文化的価値を世界に発信ができる人材の基礎力養成

国立大学法人
鹿屋体育大学
National Institute of Fitness and Sports in KANOYA

◆ グローバル化推進支援経費　◆ 事業代表者：国重　徹（国際交流センター長）

◆本事業の目的と概要

NEXT30国際化ビジョンに掲げる「スポーツや武道を通した国際交流を図り、それらの学術的・文化的価値を世界に発信できる人材」の基礎力養成を目的として、特任専門員を雇用し学生の国際活動支援体制を整備するとともに、次の事業を実施した。

1）　JICA連携派遣事業の実施及び事前指導
2）　JICA海外協力隊、国際学会発表、海外調査研究、海外留学等に係る指導・勉強会
3）　留学フェアの実施
4）　留学生と日本人学生のスポーツ交流イベントの実施

◆令和7年度動内容

1）　JICA連携派遣事業については学生2名の短期派遣に向けて学内外との連絡調整や各種手続き支援等を行ったが、派遣予定者の個別事情により派遣実施には至らなかった。一方、長期派遣については、令和8年4月開始に向けた関係機関との調整を進めるとともに、派遣予定者1名に対して事前指導を実施した。

2）　海外でのスポーツ交流や短期研修を希望する学生に対し、プロジェクト事業代表者によるマンツーマン英語指導を実施した。

3）　留学フェアについては、7月3日に第1回、12月3日に第2回を実施し、延べ64名の学生・教職員等が参加した。

4）　スポーツ交流イベントを6月5日に実施し、留学生、日本人学生及び教職員の計20名が参加した。 特任専門員は、これらの事業の計画、準備、実施、渉外、広報、参加者募集、関係機関との連絡調整、評価及び成果の取りまとめ等の業務を担った。

◆活動の成果①

異文化理解と英語コミュニケーション力を向上させるための勉強会を実施

本事業の目的と概要2）として、スポーツ・異文化理解・言語の3本柱を念頭に、以下の①②を実施した。

①授業内多読：授業内15分～20分＋授業外多読を実施。授業の評価にも加味。2025年度後期→平均語数64,232語、平均冊数67冊を読了。

【効果】ストーリーを読むのが楽しく、好きになる。英語に対する抵抗が減少。1冊の本が読めて、徐々に英語に対する自信が増加。多読を通して語彙を習得することができた。

②マンツーマン英語指導：全学オリエンテーションや授業で案内を行い、多読をベースとして学生の目的（海外スポーツ関連留学、TOEIC対策、英語運用力の向上など）に応じた個別レッスンを実施。希望者は予約制とし、週1回（約30分）、レッスンに加えて多読の確認・貸出及び次回予約を行った。口コミにより希望者が増加し、1週間に約20人に対して実施した。

【効果】英会話力向上、TOEICスコアアップ（200点～400点アップ）。長期継続者→スコアの伸び顕著（700点越えが普通、800点、900点越えも）。
具体例：Aさん 約1年でスコア365→675→720→850→930点（その間多読100万語読破）

◆活動の成果②

留学フェアの実施



本事業の目的と概要3）として、留学フェアを実施した。

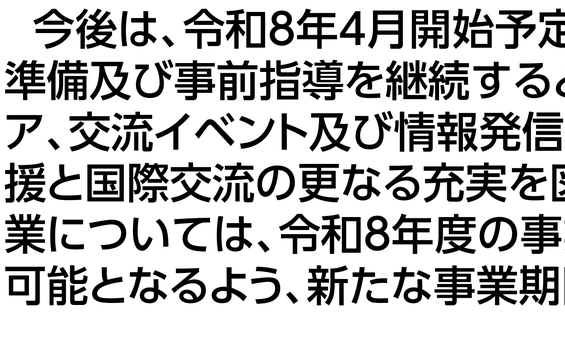
1）　第1回留学フェア
JICA海外協力隊連携派遣2024年度活動報告会
令和7年7月3日実施。学内外から40名が参加し、ペルー共和国で柔道指導を行った学生2名が現地での経験について報告した。柔道を通した国際交流や異文化理解の実体験を共有することで、参加者の海外活動への関心を高める機会となった。

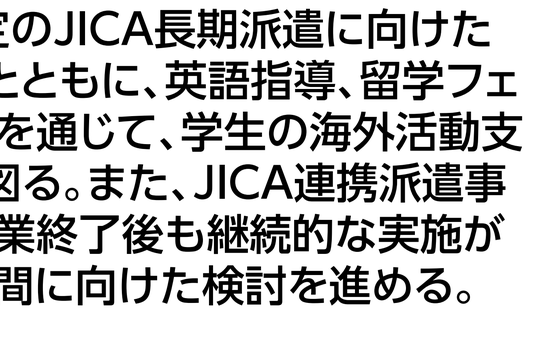
2）　第2回留学フェア Brown Bag Session－留学経験者に話を聴いてみよう－
令和7年12月3日実施。学生・教職員24名が参加した。海外研修やワーキングホリデーを経験した学生が自身の体験や学びを共有し、参加者と活発な質疑応答が行われた。過去の参加者アンケートを踏まえ、参加しやすい昼休み時間帯に開催した結果、第1回の学生参加者13名を上回る17名の学生が参加した。

◆活動の成果③

留学生と日本人学生とのスポーツ交流イベント

本事業の目的と概要4）として、令和7年6月5日に留学生と日本人学生のスポーツを通した交流イベント「ドッヂビーで交流しよう！」を実施した。
本イベントには留学生6名、日本人学生9名、教職員5名が参加し、ニュースポーツであるドッヂビーを通して交流を深めた。休憩時間には参加者全員が自己紹介を行い、普段接点の少ない学生同士がお互いを知る機会となった。スポーツを通して参加者間のコミュニケーションを促進し、グローバルな視座を養う契機となった。





◆事業成果及び今後の事業の展望

特任専門員が、各事業の連絡調整、手続支援、事前指導補助等を支援し、実施するとともに、JICA連携派遣事業の派遣準備、過年度派遣学生による地域小学校での出前授業の準備・調整及び情報発信を行い、派遣経験の地域還元と事業の周知を推進した。

今後は、令和8年4月開始予定のJICA長期派遣に向けた準備及び事前指導を継続するとともに、英語指導、留学フェア、交流イベント及び情報発信を通じて、学生の海外活動支援と国際交流の更なる充実を図る。また、JICA連携派遣事業については、令和8年度の事業終了後も継続的な実施が可能となるよう、新たな事業期間に向けた検討を進める。